

シンポジウム 「DX時代の情報管理と人材育成 : ライブラリーサイエンス専攻の挑戦」

上山, あゆみ
九州大学大学院人文科学研究院 : 研究院長

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院

石田, 栄美
九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻

富浦, 洋一
九州大学大学院システム情報科学研究院情報学部門

他

<https://doi.org/10.15017/6757889>

出版情報 : 2023-01-11. Department of Library Science, Graduate School of Integrated Frontier Sciences, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



九州大学大学院 統合新領域学府
ライブラリーサイエンス専攻



九州大学文学部

シンポジウム「DX時代の情報管理と人材養成 —ライブラリーサイエンス専攻の挑戦—」

2023年1月11日(水)
九州大学伊都キャンパス イースト1号館C-203会議室



九州大学

研究データ管理

— 研究者と大学の役割 —

システム情報科学研究所 情報学部門

統合新領域学府 ライブラリーサイエンス専攻

データ駆動イノベーション推進本部 研究データ管理支援部門

富浦 洋一

研究データ管理の背景

オープンサイエンス

論文、研究データについて、科学界だけでなく、産業界および社会一般からのアクセスと利用を可能にしておくことで、イノベーション創出につなげることを目指した新たなサイエンスの形態

➤ 世界的なオープンサイエンスの動き

- G8科学大臣及びアカデミー会長会合（2013）
… G8は科学研究データのオープン化を確約
- 文科省 科学技術・学術審議会学術分科会
「学術情報のオープン化の推進について（審議まとめ）」（2016年）
… 大学等における研究成果の原則公開、論文根拠データの原則公開
- 「研究データの権利に関するソルボンヌ宣言」にRU11が署名（2020年）
… 研究データは可能な限りオープンに共有され、再利用されるべき。

➤ 研究公正

- 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（文科省、2014年）
研究機関において、研究者に対して、一定期間研究データを保存し、必要な場合に開示することを義務付ける旨の規定を設け…
- 研究データの保存等に関するガイドライン（九州大学、2015年）

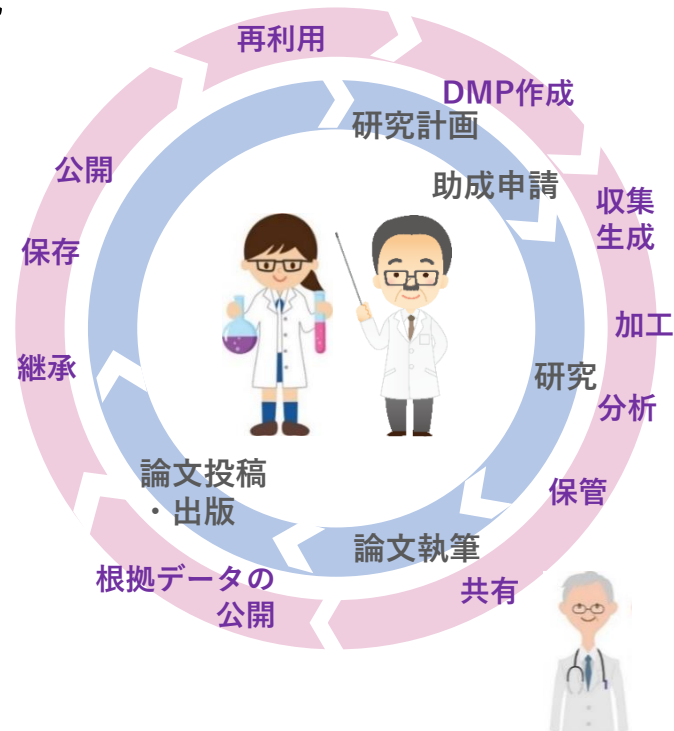
➤ データガバナンス強化

- 第6期科学技術・イノベーション基本計画（2021年）
大学等において2025年までにデータポリシーの策定率100%
2023年度までにDMP及びこれと連動したメタデータの付与の仕組みの導入率100%
- 2024年度科研費から、全研究種目で交付申請時にDMP提出が必須化

研究データ管理

研究データ管理とは

- データ管理計画（DMP）の作成とそれに従った管理、研究進展に伴うDMPの修正
- 研究中の研究データの利用・保管
- 論文の根拠データのリポジトリへの保存（公開）
- 研究終了時の研究データの保存・廃棄の選別、保存期間の設定・延長、保存・廃棄の適切な実施
- 研究データの公開



研究データ管理・公開の意義

競争的資金獲得のために必要だから、DMPは作成する。
論文の根拠データはとりあえず保存はしておく。
公開は面倒だからやめておこう。



- 研究者のデータ管理業務の負担が増えるだけ。
- 直接的な生産活動に寄与しないので、大学も研究者の負担軽減のための大規模な資源の投資はしない（?）
- オープンデータが進展している海外大学に置いて行かれる。

研究データ管理・公開の意義

管理・公開をやらされている感があるが...
次の意義を考慮し、積極的に管理・公開すべき。

- 適切な管理は、自身の研究の正当性を主張できるという意味で、研究を守ることになる。
- 研究データを自身の管理下におくことは、自らの研究データを守ることになる。ひいては研究活動を守ることになる。
- 適切な管理は、**研究の効率化**に繋がる。

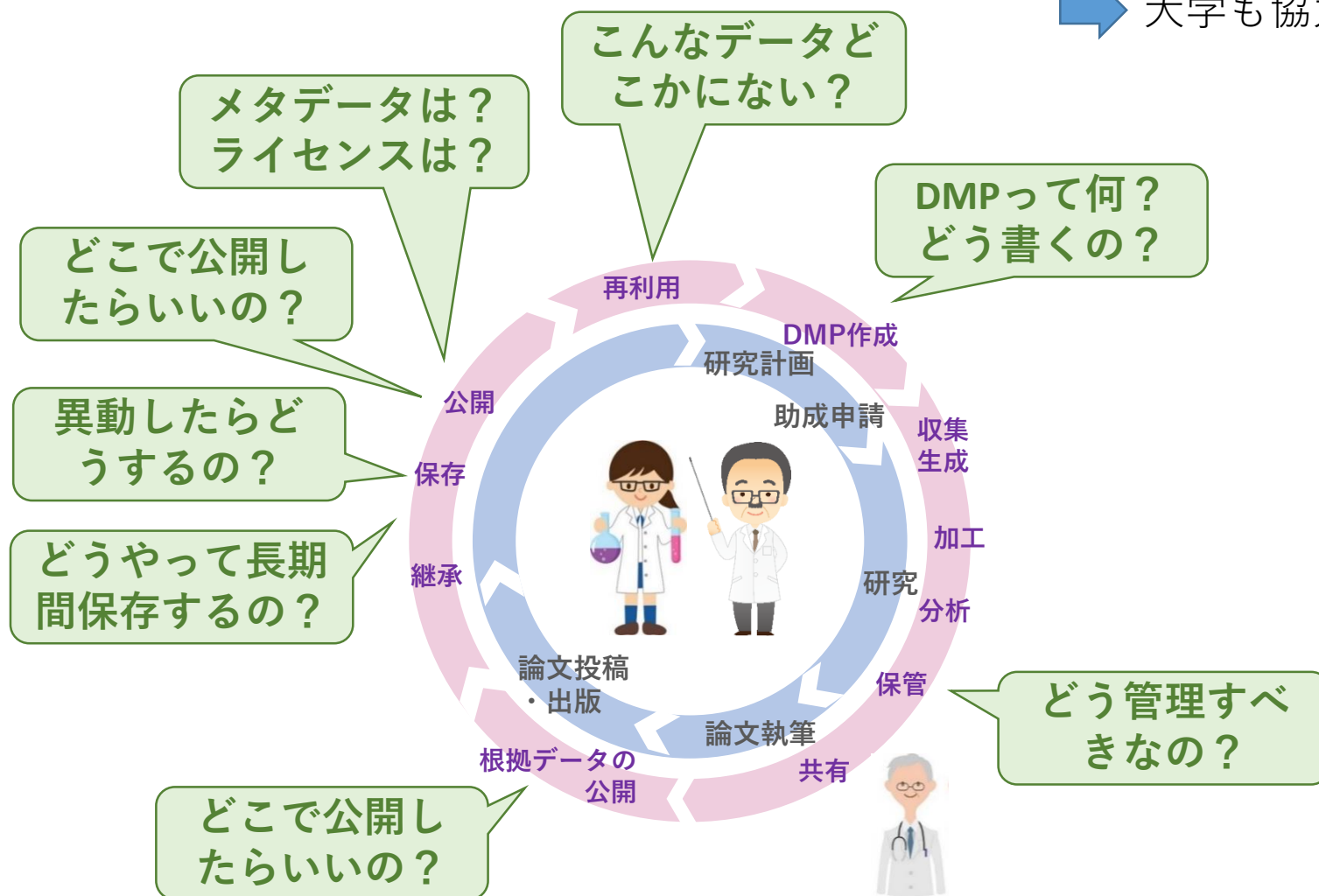
- 公開は、多くの人にデータが利用され、その**研究自体の価値が高まる**。
- データ・資料の公開・共有は、**大規模なデータ・資料群**に基づく**新たな実証的研究**に繋がる。

直接的な生産活動に寄与するのは、データの公開・共有

研究者の役割・大学の役割

しかし、研究データの管理・公開を研究者だけで行うのは大変

➡ 大学も協力／支援



研究者の役割・大学の役割

(研究データの管理)

4. 研究者は、自らが収集・生成した研究データの管理を行う権利を有するとともに、関係する法令及び倫理規範に従って適切に管理する責務を有する。本学は、研究データの最終的な管理責任を負うとともに、研究データ管理のための支援環境を整備する。

—九州大学研究データ管理・公開ポリシー（草案）—

- **管理は研究者自身が行う。**
- 研究の根拠データに対する開示要求があり、当該の研究者が開示要求に応えられない、あるいは、開示を拒否した場合は例外的に、大学が判断し、必要があればそのデータを開示する（最終的な管理責任）。
- **本学は**研究者が研究データの管理をするための**環境（情報基盤、人的支援体制※）を整える。**

※ 管理に関する人的支援

DMP作成支援、データ管理に関するアドバイス、
リテラシー教育など

研究者の役割・大学の役割

(研究データの公開)

5. 本学と研究者は、社会への貢献と大学の研究戦略を踏まえ、相互に協力して研究データの公開を進め、その利活用を促進する。研究者は、それぞれの研究分野の特質を踏まえ、関係する法令及び倫理規範に従って、公開の可否を決定する。本学は、研究者による公開のための活動に積極的に関与し、その支援環境を整備する。

—九州大学研究データ管理・公開ポリシー（草案）—

- 研究者は、本学としてのオープンアンドクローズ戦略も踏まえ、公開の可否、公開開始の時期を決定する。
- 公開に際しては、FAIR原則も踏まえ、**ライセンス、メタ情報の付与、公開場所等**を研究者と本学が協力して決定し公開する。

FAIR原則：Findable, Accessible, Interoperable, Reusable

- **本学は、研究データの公開のためのリポジトリを提供する。**
- 本学は、個人情報の匿名化など、公開のための加工処理を支援する。

 **研究データ管理・公開の支援人材が必要**

情報専門職人材の養成

20世紀後半におけるICT環境の急速な発展に伴い、知識や情報をめぐって社会は大きく変容しています。人々はインターネットをはじめとする多様なメディアがもたらす情報の大海に置かれ、情報化社会を享受しています。しかし、その反面では、従来の法制度や技術ではもはや充分に対応できない新規で重要な諸問題が次々に生起しています。

・・・（中略）・・・

このような状況において、**緊急の課題として浮かび上がっているのが、知や情報の適切な管理とアクセスの保証**です。創造性豊かな活動を展開するためには、知や情報を適切に入手する必要がありますが、その基盤となるのが信頼できる流通、管理、そして活用のシステムです。・・・

本専攻では、問題の複合的な性格に対応して、人文科学、社会科学、学習科学、情報学などから学際的にアプローチし、実践的な課題に現場で応えることができる高度な専門人材を育成します。

（ライブラリーサイエンス専攻Web Page の専攻紹介より）

研究データ管理を支援する人材は、正にライブラリーサイエンス専攻で養成しようとしている情報専門職

情報専門職人材の養成

研究データの内容について最も詳しいのは、作成した研究者。

支援人材にメタデータ付与が可能か？

- 個々の研究において、その研究の目的を達成するための研究データのメタデータは（特に人文社会系では）研究者独自のもので、その研究者でなければ正確にメタデータの付与はできない。
- しかし、それは他者の利用には不向き。
- 他者の利用のためのメタデータを**研究者と支援人材が協力して**設計・付与する必要がある。
- 他者も利用しやすいメタデータ
 - ➔ 大規模な資料群の構築 ➔ 大規模資料群に基づく新たな実証的研究
- 他の研究者のメタデータを知ることで、自身の研究にも参考になる（?）

➔ **Xプログラムに期待**